

平成22年5月11日設置

幹線系統

平成28年5月12日確保維持計画策定

豊山町地域公共交通協議会

1. 協議会が目指す地域公共交通の姿

●地域の特性と背景

- ・名古屋市中心部から10km圏内。名古屋市のベッドタウン。
- ・面積は約6k㎡(県内最小)で約1/3が県営名古屋空港関連用地
- ・名古屋中央卸売市場北部市場、エアポートウォーク名古屋、JAXA、三菱重工業(株)小牧南工場等大規模施設が立地。
- ・住宅地や各種施設がコンパクトにまとまった構造。
- ・幹線道路網は充実しているものの鉄軌道はなく、バス交通による公共交通網を形成。
- ・県営名古屋空港利用者の増加、MRJの生産・整備拠点事業の進展、あいち航空ミュージアムの建設などにより交通需要の増加が見込まれる。

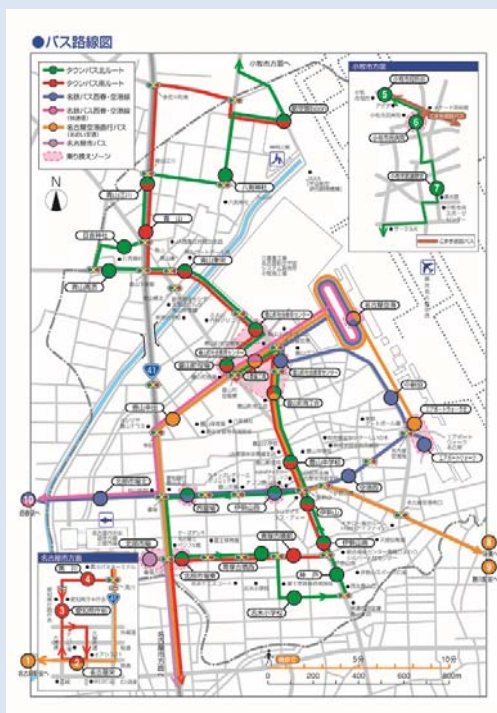
●豊山町地域公共交通網形成計画

- ・計画の目標：自動車に頼らなくても、誰もが、安全・安心で便利に、行きたい所に行ける地域公共交通の実現。
 <具体的数値目標>(カッコ内は平成25年度値)
 公共交通に対する住民満足度20.0%(14.1%)、バス停勢圏人口カバー率95.0%(91.9%)、
 とよやまタウンバス年間利用者数94,000人(74,990人)、とよやまタウンバス運行負担率50.0%(60.5%)

- ・計画の期間：平成27年度～平成31年度の5年間

●公共交通の将来像等

- ・名鉄バス西春・空港線やおおい交通空港直行バス及び幸田・勝川線、名古屋市営バス、とよやまタウンバスをネットワークとして総合的に捉え、それぞれの連携を図る。
- ・鉄道がない本町においてバスを中心にタクシーなど多様な交通サービスを組み合わせる。
- ・自動車に頼らなくても、子どもや高齢者も安心して町内を回遊し、町外への通勤・通学や買い物、通院など生活に必要な施設に行きやすい公共交通環境の充実。
- ・計画については、町民討議や住民・利用者の評価・意向把握、地域公共交通会議での報告・協議を元にPDCAサイクルを機能させながら逐次、見直し・改善を図る。



2. 計画の達成状況の評価に関する事項

- 公共交通網評価の基本的考え方
町民討議での議論を通じて、住民・利用者の評価・意向を把握し、必要に応じて追加調査を実施。
- 評価指標及び評価基準
豊山町地域公共交通網形成計画で記載した数値目標の達成度合いにより行う。

目標指標	目標値	現状値(平成 25 年度)
①公共交通に対する住民満足度	20.0%	14.1%
②バス停勢圏人口カバー率	95.0%	91.9%
③とよやまタウンバス年間利用者数	94,000人	74,990人
④とよやまタウンバス運行負担率	50.0%	60.5%

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

- ・地域公共交通調査事業（計画推進事業）を活用して、①町内6路線の公共交通マップの更新・作成と新規転入者等への配布、②公共交通マップの更新内容に応じた町ホームページのコンテンツ更新、③公共交通情報に係るスマートフォン向け Web コンテンツの作成、④とよやまタウンバスの運行情報等に係るコンテンツプロバイダの乗り換え案内検索サービスへの提供を実施。
- ・町の広報紙やホームページによる公共交通利用の PR などを実施。
- ・生涯学習のメニューに「公共交通機関の使い方」を登録し、申請のあったグループに対し公共交通を PR（5月12日、豊山町心身障害者福祉協議会の会員約30人）。
- ・11月12日に開催された町主催の環境フェスティバルにおいて、地域公共交通確保維持改善事業を活用して作成した啓発用クリアファイルを用い公共交通利用を PR（全来場者を対象に豊山町の公共交通に関する簡単なクイズを実施。クイズの解説を行う中で126名の方に豊山町のバス路線や賢い公共交通の利用について PR を行った）。

1) 取組み経緯

●域内の公共交通の概要、問題点、実施に至る経緯

- ・本町は、町域が約 6k m²とコンパクトで約 1/3 が県営名古屋空港関連用地となっている。
- ・鉄軌道はなくバス交通が公共交通網を形成形成しており、タウンバスや民間バスが町内外の主要なアクセス手段。
- ・平成 14 年 9 月の名鉄バス名犬バイパス線の廃止に伴い、同年 10 月から、町主体で「とよやまタウンバス」の運行開始。
- ・19 年度から地域公共交通会議を設置し、民間バス事業者と連携・調整しつつ、地域公共交通環境の向上に努めてきた。
- ・平成 22 年度に策定した第 4 次総合計画では、「タウンバスを中心とした公共交通の充実」が重点戦略の 1 つ。
- ・平成 23 年 3 月、地域公共交通活性化再生法に基づく地域公共交通総合連携計画策定（計画期間：H23 年度～26 年度）。
- ・平成 26 年度、近年の人口増加、MRJ の生産・整備拠点計画の進展を背景に第 4 次総合計画後期基本計画策定（計画期間：H27 年度～31 年度）。
- ・平成 27 年 3 月、地域公共交通総合連携計画を、改正地域公共交通活性化再生法に基づき改定し、「地域公共交通網形成計画」を策定。周辺市との連携を考慮しつつ、徒歩・自転車・鉄道・路線バス・タクシー・自家用車等の全ての交通手段を一体的なネットワークとして捉え、町が目指す「小さくてキラリと輝くまちづくり」の実現を支えるため取組を推進している。

●協議会の開催状況、議論の概要（予定を含む）

H27 年度協議会開催状況

- ・第 1 回 平成 27 年 9 月 1 日開催。①H26 年度決算・H27 年度予算 ②豊山町地域公共交通会議設置要綱を改正し、関係自治体の小牧市・名古屋市を委員に追加。
- ・第 2 回 平成 28 年 1 月 14 日開催。①地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価 ②名古屋交通圏タクシー準特定地域計画（案）に対する意見提出。
- ・第 3 回 平成 28 年 3 月 16 日開催。①H28 年度予算について。

H28 年度協議会開催状況

- ・第 1 回 平成 28 年 6 月 22 日開催。①事業報告及び決算 ②事業計画及び予算 ③名古屋市営バス社会実験について
- ・第 2 回 平成 28 年 12 月 13 日開催。①地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価
②名古屋市営バス社会実験に係る調査について など。
- ・第 3 回 平成 29 年 3 月開催予定。①H29 年度予算について ②名古屋市営バス社会実験について など予定。

2) 目標を達成するために行う事業・実施主体

●各事業の着手時期・実施期間及び事業主体

- ①町内全 6 路線の公共交通マップの更新・配布 実施時期：平成 28 年 4 月、12 月、平成 29 年 4 月。事業主体：町
- ②公共交通情報にかかる WEB コンテンツの作成 実施時期：随時。事業主体：町
- ③町内公共交通ネットワークの「見える化」の促進
・とよやまタウンバスへのバスロケーションシステム導入 実施時期：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月。事業主体：町

4. 具体的取組みに対する評価

【評価の視点（例）】

- ・ 地域公共交通網形成計画に設定した目標のうち、とよやまタウンバスの利用者数は平成27年10月～平成28年9月で78,474人で前年度に比べて約0.1%減少となった。幹線系統に位置付けられているとよやまタウンバス南ルートの利用者数は68,303人（前年度69,035人）で約1%減少となったものの生活交通確保計画の目標数65,000人を約5%回った。町内と名古屋都心部を結ぶ当該ルートは、通勤や買物を目的とした町民の生活の足として重要な役割を担っており、今後、町内の三菱重工業やJAXAを中心とした航空宇宙産業の集積地へのアクセスとしても重要性が高まると予想される。
- ・ 平成27年度（平成27年4月～平成28年3月）では、とよやまタウンバスの利用者数は79,589人で前年度（77,733人）に比べて約2.4%の増加。とよやまタウンバス運行負担率は47.8%で前年度（56.6%）から約9%改善。
- ・ あおい交通による名古屋空港直行バスの利用者数は446,962人で前年度（344,932人）に比べて約29.6%の増加、幸田・勝川線の利用者数は62,019人で前年度（44,837人）に比べて約38.3%の増加。名鉄バスによる西春・空港線の利用者数は734,018人で前年度（669,694人）に比べて約9.6%の増加。

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

① 目標の達成状況に関する課題

・ とよやまタウンバスの利用者数（平成27年10月～平成28年9月）は78,474人で前年度に比べて約0.1%減少している。そのうち南ルートについては、68,303人（前年度比約1.1%減）となったが、生活交通確保計画の目標数を達成している。微減であるが、推移を見守る必要がある。一方、北ルートは、10,171人（前年度比約7.3%増）と増加した。これまで減少傾向であったが、歯止めがかかったのかを見極める必要がある。

② 公共交通ネットワークに対する課題

・ 本町では、県営名古屋空港利用者の増加、MRJ生産・整備拠点事業の進展やあいち航空ミュージアムが平成29年11月末にオープンするなど町内外の人の流れが大きく変わる事となる。これらに対応するため、名古屋市や名鉄バス、あおい交通に対し、平成27年7月、名古屋商工会議所・県等とともにアクセス強化の要望を行った。それを受け北部市場まで乗り入れている名古屋市営バス路線を空港まで延伸した場合の需要や運行上の課題、利用者の意向、本町内のバスネットワークへの影響などを把握するため、名古屋市交通局と本町が連携して平成29年3月の1ヶ月間社会実験を行う予定である。

課題への対応方針

- ・ バスに対する町民のニーズや期待は大きく、今後、利用者を増やして目標を達成するためには、運行本数やルート、待合環境などを改善していくことが重要となっている。
- ・ 今後の公共交通網をどのような形にしていくのが最善なのかを調査・研究するとともに、国・県・周辺自治体・バス運行事業者等の理解と協力を得ながら、地域公共交通会議での議論を深めていく必要がある。

1. 直近の第三者評価の活用・対応状況

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>公共交通情報にかかるWebコンテンツの作成や、公共交通ネットワークの「見える化」の促進を図ることで、町民や公共交通利用者の利便性を向上させていることについて評価します。</p> <p>今後は、公共交通マップの更新とともに、ホームページへのアクセス件数が増加する取り組みや、情報提供する検索サイトの拡大などの取り組みの実施を期待します。</p>	<p>ホームページ（スマートフォン版を含む）を適宜更新。</p> <p>ジョルダン、ナビタイムジャパン等にとよやまタウンバス運行情報等を掲載。</p> <p>公共交通マップにQRコードを掲載するとともにとよやまタウンバスのバス停にQRコードを表示。</p> <p>とよやまタウンバス車内及びバス停にwi-fi環境を整備し、バスロケーションシステム導入に向けて事業実施中。平成29年3月末完了予定。</p> <p>平成28年3月に「見どころマップ」を作成。</p> <p>出前講座や町イベント等において、公共交通をPR。</p>	<p>公共交通マップやホームページなどの更新を引き続き行い、PRに努める。</p> <p>町ホームページから、きたバス（北名古屋市）やかすがいシティバスへのリンクに向けて、関係市町と調整する。</p> <p>既存のイベントやキャンペーン等あらゆる機会を捉えて公共交通の利用をPRする。</p> <p>地域公共交通会議を通じて関係市町、バス事業者、タクシー事業者と連携・調整し、より利便性の高い公共交通の形成を目指す。</p>

2. アピールポイント

- 取組に当たっては、地域公共交通利用実態調査や町民討議会議などを通じて得られた公共交通に対する町民のニーズをできるだけ反映するようにした。
- 公共交通マップについては、とよやまタウンバス、名鉄バス西春・空港線、あおい交通の名古屋空港直行バスや幸田・勝川線の基本的な情報を掲載し、ダイヤ改正にも適宜対応している。また、バス利用者の使い勝手を考慮し、とよやまタウンバスの運行情報等について、スマートフォン向けのホームページコンテンツの更新・作成やコンテンツプロバイダの乗り換え案内検索サービスへの掲載に取り組んでいる。
- 教育委員会が所管する出前講座に「公共交通機関の使い方」を登録し、申し込みのあった豊山町心身障害者福祉協会の会員およそ30人を対象にとよやまタウンバスをはじめとする町内のバス路線についてPRを行った。あおい交通(株)の協力を得て、実車を用いて、乗り方や車いすでの利用についてのPRを行った。
- 平成28年11月12日開催の町主催環境フェスティバルの環境クイズコーナーで、豊山町における公共交通の簡単なクイズを行い、回答を解説する中で豊山町の公共交通網や自発的な公共交通の利用を促した。また、クイズ参加者に地域公共交通確保維持改善事業を活用して作成した公共交通啓発用クリアファイルを配布することにより参加率を高めた。参加者からは、豊山町から名古屋駅や名古屋栄、北名古屋市の西春駅などへ直接アクセスする路線があることを初めて知ったという方や、環境にやさしいバスを是非利用したいとの声も数多く寄せられた。